

# 吹奏楽 ゆるりと楽しむ35人

吹奏楽から遠ざかっていた人たちが半年間の期間限定で結成した「スローライフプラス」が15日、山形市で発表会を開く。県内各地から公募で集った35人がそれぞれの思いを胸に、ハーモニーを奏でる。

主宰するのは、社会人バ 山市の相田淳一さん(64)。インドなどで活躍してきた上 学生時代や社会人バンド活



合奏練習に取り組むメンバー＝いずれも8日、上市市、スローライフプラス提供

## 半年限定 あす山形で発表会

動からブランクが空いてしまった人向けに気軽に演奏できる「場」を提供しようと昨年初めて企画し、今回で2回目。

活動のゴールは10月の発表会だ。「月1回の部活動気分」を合言葉に集まったメンバーが5月から月1回合奏を重ね、発表会が終われば解散する。メンバーは毎年入れ替わる仕組みだ。

「組織化すれば運営など純粋に音楽を楽しめない面も出てくる。それぞれが『無理なく、楽しいと感じる範囲で楽しむ』のがモットーです」

今年は、昨年の倍近い40人が応募。このうち35人がステージに立つ。「参加者は20代〜70代でしょうが。ただ年齢も職業も聞いていないので正確には分かりません」と相田さん。

フルートの勝俣千恵子さん(51)とホルンの田中千恵さん(51)は、短大時代のサークル仲間。「部活動気分」という言葉に誘われて参加したら約30年ぶりに再会を果たした。「サプライズでしたね。まさか一緒の

## 同級生と再会 ■ 憧れの楽器挑戦

ステージでまた吹けるなんて」と声をそろえる。

勝俣さんは、所属先の社会人バンドがコロナ禍で活動機会が少なくなり演奏から遠ざかっていたところ、スローライフプラスを知った。「互いを認め合いながら楽しめるのが魅力です」

田中さんは出産を機に社会人バンドの活動から離れたが、約12年ぶりに大勢での合奏を楽しんでいる。「昔のように千恵子ちゃんフルートを吹いているのを後ろから見ながら、懐かしい気持ちで練習しています」

バスクラリネットの鈴木康生さん(53)は娘2人も吹奏楽部出身というブラバン一家。長女がスローライフプラスのチラシを持ち帰って活動を知った。昨年に続き2度目の参加だ。

中高と金管楽器の担当だった鈴木さん。当時からひそかにクラリネットに憧れて陰で吹いていました。大学で念願のクラリネットを担当したものの、周囲とのレベルの差を感じて挫折した。スローライフプラスではそんなほろ苦い青春が詰まった楽器に再挑戦し、今年は低音のバスクラリネットでハーモニーを下支えしている。

「合奏は一人だときない。みんなと吹けてうれい。みんなと笑顔をみせる。いです」と笑顔を見せる。発表会は15日午後2時、山形市蔵王松ケ丘2丁目の東ソーアリーナで。行進曲「ワシントン・ポスト」など7曲を披露する。無料。

(兼田徳幸)



フルートの勝俣千恵子さん(手前左)とホルンの田中千恵さん(同右)。奥はバスクラリネットの鈴木康生さん